

# 大松

至誠 剛健 協同

香美町立香住小学校 学校だより  
(令和4年7月20日号) No. 47



## 2年生が町たんけん

7月6日(水)、2年生が町たんけんに出かけました。今回は香住区中央公民館と香住文化会館の見学でしたが、両施設とも職員の皆様に丁寧にご説明いただき、子どもたちにとって深い学びのある町たんけんになりました。特に、香住区中央公民館ではホールの舞台上に上がらせていただき、子どもたちの満足そうな笑顔が印象に残りました。また、香住文化会館では、ロビー奥のスペースに800冊もの本があるというお話があり、子どもたちは一様に驚いていました。今回の町たんけんを通じて、両施設が果たしている役割を子どもたちは理解したものと思われま



## 七夕(たなばた)



右の写真は7月7日(木)の七夕の日、2年生教室のテラスで撮影しました。日本では奈良時代から七夕の行事が始まったようですが、もともとは中国から伝わってきたとか。この日、子どもたちの願い事が書かれた短冊をひとつひとつ読んでみると、「さんすうがとくになりますように」「あしがはやくなりたいです」「おんどくができますように」「およげるようになりますように」などの自分の成長を願う言葉とともに、「みんなとなかよくなれますように」「みんなとニコニコすごせますように」などの学校生活の向上を願う言葉もありました。さらには、「せんそうがはやくおわりますよう」「コロナがはやくなくなりますように」など世の中の動きに目を向けた願い事もあり、胸が熱くなりました。



## かがやき学級がオンライン交流

7月12日(火)かがやき1組・かがやき2組の児童が香住第一中学校の生徒さんとオンライン交流をしました。本来であれば7月8日(金)に香美町同学習会が予定されていたのですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止となってしまいましたので、今回のオンライン交流は児童にとってひととき楽しいものになったようです。元気よく自己紹介する様子が印象的でした。



## 新型コロナウイルス感染症



いったいいつまで苦しめられるのでしょうか。またしても新型コロナウイルス感染症の波がこの香住の町にも押し寄せてきてしまいました。本校でも7月5日(火)より一部の学年において学年閉鎖を余儀なくされ、たいへんつらい日々を過ごすことになりましたが、今後についてもさらなる拡大が心配です。これから長い夏休みに入りますので、各ご家庭における感染症対策をどうぞよろしくお願ひします。

## 6年生が着衣水泳

7月13日(水)、6年生が着衣水泳を行いました。これは、水難事故に遭った際、着衣状態で泳ぐことがいかに困難であるかを知ること、また、海などに落ちてしまった場合の対処の仕方について知ること等を目的にしています。着衣のままプールに入った子どもたちからは、「重くてうまく体を動かさにくい。」とか「水から上がるのにすごく力がある。」などの声が上がリ、水難事故の怖さを知りたいへん貴重な体験となったようです。



## 令和4年度1学期終了

4月7日(木)に始まった令和4年度の1学期ですが、本日(7月20日)の終業式をもってなんとか終わることができました。振り返ってみますと、可愛い新入生を迎えた入学式、保護者の皆様にご来校いただいた授業参観、異学年で交流を深めたミニ遠足、3年ぶりに有観客で開催した運動会などの大きな行事をはじめ、数々の素晴らしい思い出が残った学期となりました。いっぽう、前述のように新型コロナウイルス感染症の猛威に再び見舞われるという残念なことも起きてしまった学期でもありました。これから始まる夏休みが香住小学校の児童にとって安全安心で、かつ内容の濃い有意義な時間となることを心から祈念して令和4年度の1学期を終えたいと思います。学校運営に対するこれまでのご理解・ご協力に心から感謝申し上げます。さて、2学期は8月29日(月)より始まります。昨年度までに比べてやや早まっていますのでお間違いなきよう。



なお、夏休み中も教職員は勤務をしますが、8月13日～15日は学校閉庁日となっていますので、よろしくご理解いただきますようお願い申し上げます。

## 教育界を取り巻く課題

最近、新聞各紙およびテレビのニュース等で「教員不足」に関する報道が多くなってきました。ただし、なにも今に始まったことではなく、かなり以前からの課題であるという認識を私は持っています。幸いにして、香住小学校では町当局のご尽力もあり教職員の欠員は生じていません。しかしながら、「教員不足」の遠因と言われている“教育現場の多忙化”についてはけっして例外ではなく、どの教職員も歯を食いしばって懸命に勤務を続けています。教職員に対しては少しでも早く帰宅し、次の日の教育活動のために力を蓄えてほしいというのが切なる願いです。と同時に仕事と家庭との両立を実現してほしいというのも大きな願いです。



【6月28日 新聞記事より】

兵庫県教育委員会は、神戸市立を除く県内の公立学校で計114人の教員が不足し、計画通りに配置できていないことを明らかにした。前年度より28人増えており、尼崎市の中学校では一部の授業を自習にせざるを得ない事態に陥っているという。県教委が各市町立と県立学校の5月1日時点の教員不足について、短時間勤務の非常勤講師を常勤換算して調べたところ、小学校46人(前年度比24人増)▽中学校46人(同11人減)▽高校16人(同11人増)▽特別支援学校6人(同4人増)に上った。原因としては、小中学校は出産や病気で休職した教員の代わりが見つからない事例が4割、少人数教育のための非常勤講師がいない事例などが3割を占めた。高校は看護、情報など特定の教科が目立つ。大半の学校は他の教員がカバーしているが、一部では授業に支障が出ているという。尼崎市教委によると、同市では小学校で2人、中学校で11人が足りていない。県教委は、教員不足の背景には教育現場の多忙に伴う教員志望者の減少があるとみて「教員OBの確保などの取り組みに加えて、働き方改革で魅力ある職場づくりを進めたい」としている。